

循環型社会を目指す

アップサイクルとは？！

「アップサイクル」という言葉をご存じでしょうか。アップサイクルは「クリエイティブ・リユース(創造的再利用)」とも呼ばれています。SDGs の目標達成にもつながることなどから、近年、注目を集めています。

アップサイクルとは？

アップサイクルとは、本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生すること、廃棄されるものや素材を、元の製品より価値の高い製品へと生まれ変わらせる取り組みのことを指します。再利用という点ではリサイクル方法の一つですが、アップサイクルは製品がもたらす「価値」に着目し、ただの再利用にはない“新たな価値を生み出すこと”を最大の目的としています。

リサイクル	アップサイクル
 <p>廃棄物を分別して一度資源に戻してから再活用する</p>	 <p>廃棄物に付加価値をつけて新たな製品に生まれ変わらせる</p>

アップサイクルのメリット

リサイクルでは原料に戻したり、素材に分解したりする際にエネルギーが使用されるのに対し、アップサイクルではそのままの形をなるべく生かすため、必要なエネルギーが少なく済み、地球への負荷を抑えることができます。さらに、原料に戻す必要がないため、リサイクルと比べて、再生時のコストを抑えることができます。また、アップサイクルは、再利用(リユース)と比べて、ものとしての寿命が延びやすいという利点があります。

アップサイクルの例として、廃材で作った家具や廃棄野菜で作ったお菓子、米ぬかからできた米油などがあります。欠けたり割れたりした陶器を、金粉を使い修復する「金継ぎ」もアップサイクルの1つといえますね。ものの寿命延長が期待できることから、製品のアップグレードと捉えることもできます。

SDGs の17の目標のうち、アップサイクルと関わりが強いのが目標12の「つくる責任 つかう責任」です。限りある地球の資源を守るため、持続可能な生産と消費のバランスを形成することを示した目標です。この目標に取り組む人や企業が増えると廃棄物の大幅削減につながります。限りある地球の資源を無駄にすることのないよう、持続可能なやり方を追求していくことが求められています。

引用:環境省「エコジン」

引用:講談社 SDGs by C-station「アップサイクルとは？」

12 つくる責任
つかう責任

